

【第 18 回 文化と地域デザイン講座】

「黒豆珈琲を楽しみませんか？ 丹波篠山市の黒大豆栽培とシビックプライド」

ー 自ら、黒大豆を育てる同市企画総務部長・竹見聖司さんをお招きして！ ー

◆ 2025 年 7 月 19 日(土曜) 午後 6 時 30 分から午後 8 時30 分まで (交流会あり！)

松本茂章 (文化と地域デザイン学会共同代表)

【開催の趣旨】

「トランスディシプリナリティ」(超学際性)を強く意識する文化と地域デザイン講座では、研究と実践の双方に挑む各界のゲストをお招きしています。今回は、農業特産品「丹波の黒枝豆」の産地である兵庫県・丹波篠山市の企画総務部長、竹見聖司さん、をお招きして、お話をうかがいます。

竹見さんは、2025 年 3 月に出版されたばかりの書籍『文化×地域×デザインが社会を元気にする』(新川達郎・松本茂章編著)(東京・文真堂)において、第 5 章 1 節「農業特産品づくりとシビックプライド」と題した原稿を執筆されました。

実は、竹見さん。公務員の一方で、実家が農家。2001 年から黒豆の栽培に取り組まれています。農家に育っても、年間を通して農作業の経験が少なかったことから、「自分たちで特産品の黒大豆栽培にチャレンジしてみよう」と呼びかけ、仲間たちと始められました。

今回は、丹波篠山の魅力、大粒な黒大豆のおいしさ、そして「篠山市」から「丹波篠山市」への市名変更の逸話など、書籍では書ききれなかったエピソードも含めて、自由に語っていただきます。

黒豆珈琲や黒豆茶などを提供する予定(現時点)。次のことに関心のある方、ぜひお越しください。

- ・農産物のブランドが、まちをどのように変容していったのか、興味がある
- ・農業とまちづくりの関係を見つめ直してみたい
- ・「くろう(苦労)豆」と言われ、栽培しにくい黒大豆の育て方を聞きたい
- ・丹波篠山市は 4 町が合併してできたので、市町村合併のプロセスや大変さを知りたい

◆会場は、元印刷工場！

まったく堅苦しくなく、フランクな会合なので、気軽にお越しくださいませ。

【日時と会場】

2025 年 7 月 19 日(土曜) 午後 6 時 30 分～午後 8 時 30 分すぎまで。参加費無料。

「本のある工場」にて(大阪市此花区西九条 5-3-10) (会場は 2 階なので、階段を上ります)

(JR 大阪環状線・阪神なんば線 西九条駅 から徒歩 7-8 分)

(終了後、簡単な食べ物・飲み物を提供して、交流会を予定しています) 差し入れ 大歓迎！

(会場は元工場の 2 階で行います。階段を登ります)

【ゲスト】

◆**竹見聖司さん(たけみ・きよし)(兵庫県・丹波篠山市 企画総務部長)**

自治体学会会員(元・企画部会長)。平成の合併を機に、社会人院生として地方自治研究を志し、放送大学大学院文化科学研究所(前期課程)を修了して修士号(学術)を取得。同志社大学大学院総合政策科学研究科(後期課程)に進学して満期取得退学。「ユネスコ創造都市」の加盟認定、「丹波篠山市」へ

の市名変更、大学連携などの主要施策で、現場を大切にし、理論に裏打ちされた施策立案を実践してきた。近年はシビックプライドになっている特産「丹波黒大豆」栽培を通じて、農村文化を実体験中。共著に、中塚雅也編『農村で学ぶはじめの一步 農村入門ガイドブック』（昭和堂、2011）。

◆企画・司会：松本茂章（文化政策学者／文化と地域デザイン研究所代表）

重要伝統的建造物群保存地区を調査するなど、松本は何度も丹波篠山市を訪ねてきた。竹見さんと「いつか一緒に本を書きたい」と願っていたところ、竹見さんが近年、朝早く起きて、黒大豆の栽培に励んでおられることを知り、書籍『文化×地域×デザインは社会を元気にする』の共著者にお声がけした。黒大豆の収穫時期は毎年10月である。市内では枝付きの黒大豆が販売される。そこで10月開催も考えたが、夏に竹見さんのお話を聞いてから、10月に黒大豆を味わいたいと願い、7月開催を決めた。

元印刷工場なので、室内は、とても暑くなります。必ず、涼しい服装でお越しください。

汗をぬぐう「タオル」「うちわ」「扇子」など、ご持参いただければ幸いです。お待ち申し上げます！

【主催と申し込み】（事前申し込み制）

文化と地域デザイン研究所（代表：松本茂章）の主催。定員15人。

次の申し込み受付フォームから先着順にて受け付けます。<https://forms.gle/tEUenhA18fkhtzZd9>

あるいは、文化と地域デザイン研究所HPを検索し、「7月19日」の催しもの欄から申し込む。

※定員制なので満席が予想されます。キャンセルされる際は、必ず事前にご連絡をお願いいたします。

【本のある工場／文化と地域デザイン講座の概要】

1969（昭和44）年に建てられた元印刷工場。築56年。亡き父から「形見」として相続した松本が、静岡文化芸術大学教授を定年退職して16年ぶりに関西に戻ったことを機に、リノベーションを行い、22年5月、アカデミックスペースとして開設した。「楽しめるサロン」づくりを目指している。同講座は「本のある工場」を拠点とする非営利な学術団体「文化と地域デザイン研究所」が主催する。

◆本拠地「本のある工場」の外観（23年撮影）／文化と地域デザイン学会の様子（23年5月18日）

